

AMIRA SUP 4.0

Software Update Package SUP 4.0.27

[RELEASENOTES](#)

Date: May 19th, 2016

AMIRA SUP 5.0

Software Update Package SUP 5.0.26

[RELEASENOTES](#)

Date: June 27th, 2017

AMIRA SUP 6.1

Software Update Package SUP 6.1.0:62

[RELEASENOTES](#)

Date: December 11th, 2020

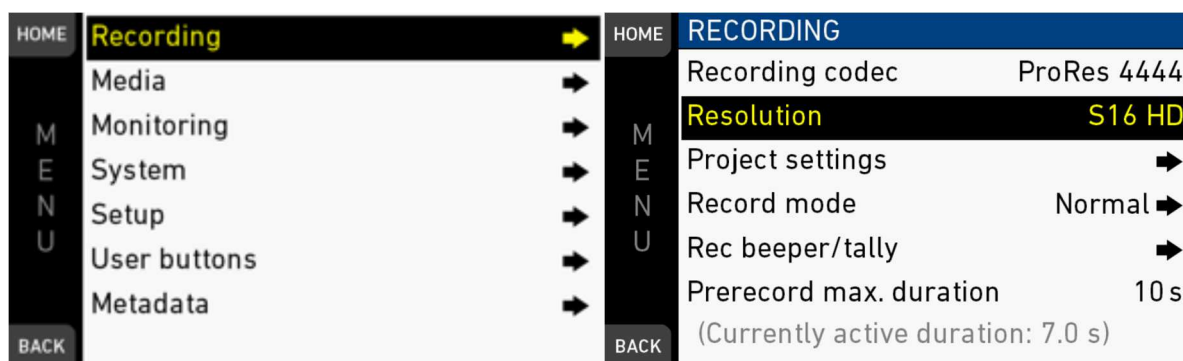


AMIRA

SUP4.0の新機能

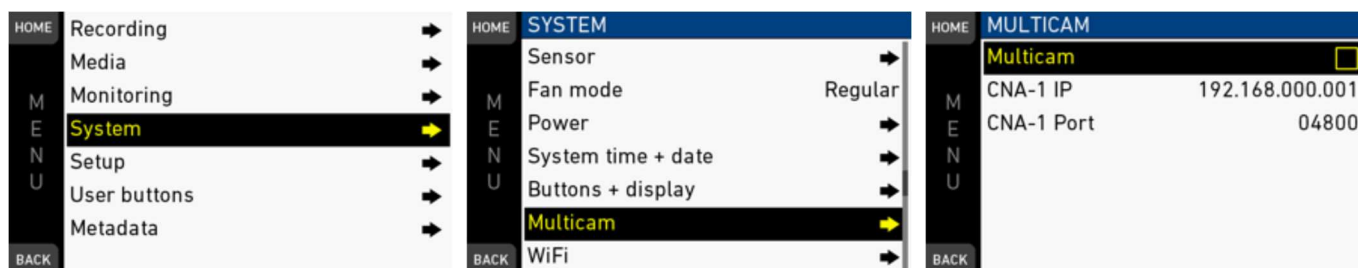
1. スーパー16HD 収録モード

S16HD・収録・モードはセンサーの 1600×900pix 使って、HD 1920×1080 で、収録します
スーパー16 のレンズ(アリ・ウルトラ 16 レンズのような)を使用可能にします。
S16 レンズのイメージサークル 14.5mm よりわずかに大きい 15.1mm のイメージサークルです。
ケリなどテストを個々に行ってください。
初めて AMIRA に S16 レンズを取り付けるとき、注意してください
内部の ND フィルター、カバーガラスに当たるかもしれません。
利用できる深さは 39.5mm です。



2. AMIRA マルチカム インターフェイスの改良

AMIRA のマルチカム インターフェイスは最適化されました。特徴と機能は最新版報告書にて確認してください。



3. カメラコントロールパネル CCP-1

CCP-1 は、基本的にアイピースのない MVF-1 ファインダーです。
MVF-1 とカメラの間でデジチェーンされ、CCP-1 は MVF-1 ファインダーと組み合わせて使用することができます。
ファインダーの代わりに使うこともできて、すべてのメニューにアクセスでき UI とメニューはモニターに表示されます。
AMIRA SUP 4.0 のマニュアルを参照してください。



4. 拡大表示のポジション切り替え

MVF-1 で拡大表示した時、LCD 周りのボタンを使用して拡大位置を選択できる



5. SDIメタデータの拡張

クリップネーム、イメージセッティング、ルック、その他たくさんのメタデータが SDI の信号に載せて出力されます
総合報告書はホームページにて確認してください

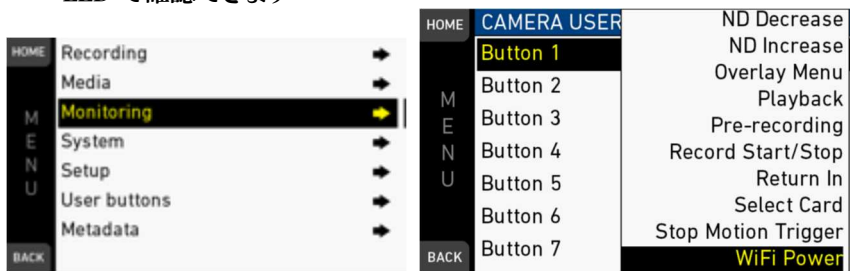
6. その他の改良点

露出時間

厳しい露出時間制限を無くし、代わりに警告表示を出します。AMIRAのセンサーは1/25s以下の露出時間に最適になるように調整されています。それ以上長い露出時間で撮影すると露出オーバーによるピクセルノイズが発生することに注意してください。

ユーザーボタンにWiFi On/Off

Wi-Fi の On/Off をユーザーボタンを使用して切り替えることができます。Wi-Fi の On/Off の状態はユーザーボタンの LED で確認できます



カメラに内蔵できるLookファイルの増加

カメラ内に内蔵できるLookファイルが20個から50個に増えました

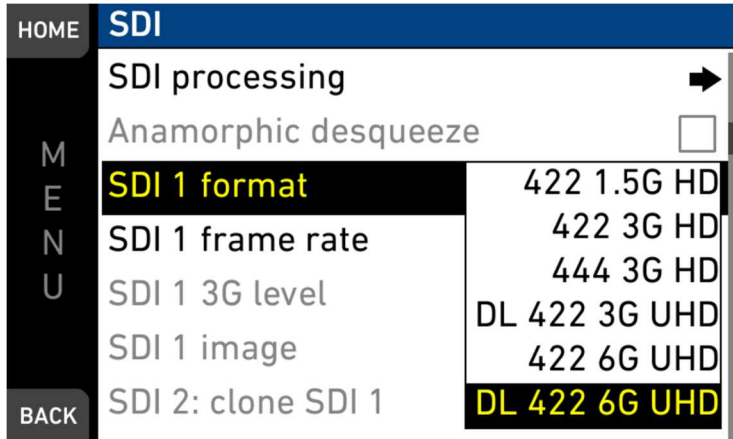
7. トランスビデオ Satlite HD5-ARRIのインターフェイス向上

機能とタッチセンサーのレイアウトが改良されましたインターフェイスがより自然な感じになり追加機能が導入されました。トップに3つのユーザーボタンに REC Start/Stop を追加し Playback モードに入ることができます

SUP5.0の新機能

1. マルチカムモード 機能向上

HDI 出力がデュアル 6G UHD SDI をサポートし、4K UHD 最大 60fps 外部収録するのに十分なデータレートに改善。マルチカムモードで 3D LUT で作成したラットをカメラにロードし使用することができる。作品のため個々のラットを事前に作成、カメラにロードし RCP で微調整することができます。



MENU > Monitoring > SDI > SDI 1/2 format

その他、EFレンズをRCPでアイリスコントロール用に改良されました。
HD-SDIメタデータリターンスイッチコマンドや、同期、ゲンロックの向上

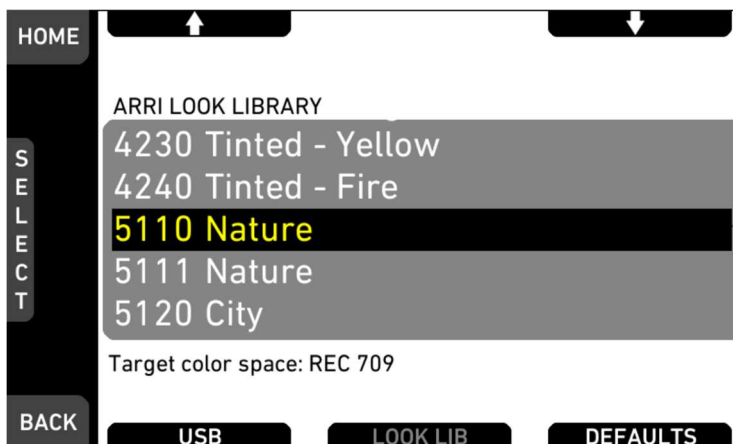
2. ARRI ルックライブラリー

ARRIは高品質なルックを実現するための刺激的で新しい方法を紹介します。

特別仕立てのルックを撮影前に用意する時間的、予算的な余裕がなくとも、ARRI ルック ライブラリーは撮影現場でのルック管理を、すべてのプロダクションが手の届くものにします。

各々3つの強さで87のルックスを提供し、ARRI ルックライブラリーは、巨大な種類の異なる撮影シナリオの要求を満たします。ルックスは、9つのグループのテーマがあります：

アプリケーション、白黒、対照、環境、フィルム、期間、季節、スペシャル、色調



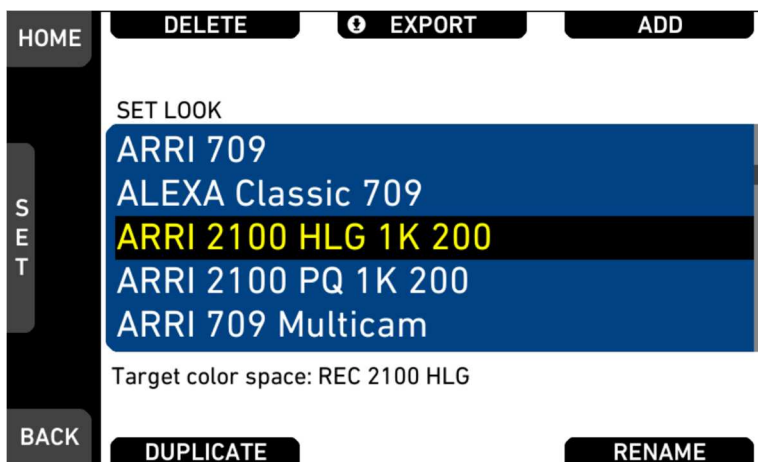
HOME > LOOK > EDIT > ADD > LOOK LIB

3. 新 HDR lookファイル

ARRI 2100 PQ 1K 200:PQ規格(SMPTE 2084, ITU-R BT.2100)モニター用、PQレベル75%で最高ルミナンス1000cd/m²、ホワイトはルミナンス200cd/m²で現れる

ARRI 2100 HLG 1K 200: HLG規格(Hybrid Log Gamma, ITU-R BT.2100)モニター用、モニターは最高1000cd/m²あると想定する場合、映像は、PQルックがPQ用モニターで使われるのと同じように見える

HDRルックはモニター用として使用し、収録はLog Cで収録することを推奨します。



HOME > LOOK > EDIT

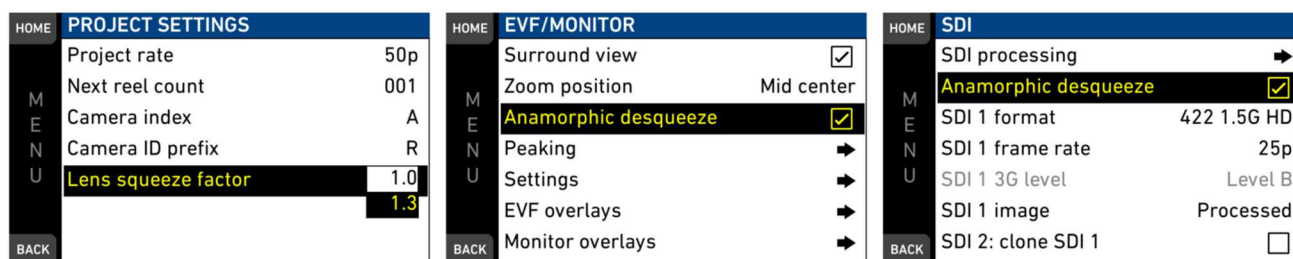
4. ARRI マスターグリップ

ARRIマスターグリップの機能が拡張されました。ENGLレンズの3軸コントロール、ユーザーボタンの設定。EFマウントレンズのフォーカス、アイリスを正確に合わせることで、マスターグリップを使うことは、重さとコストのためにより小さいEFレンズを要求するオペレーターのためのより興味深いソリューションを提供します。



5. 1.3x アナモフィック ディスクイーズ

MVF-1, CCP-1, SDI出力の1.5G, 3Gは、1.3xのアナモフィックレンズのディスクイーズに対応しました。



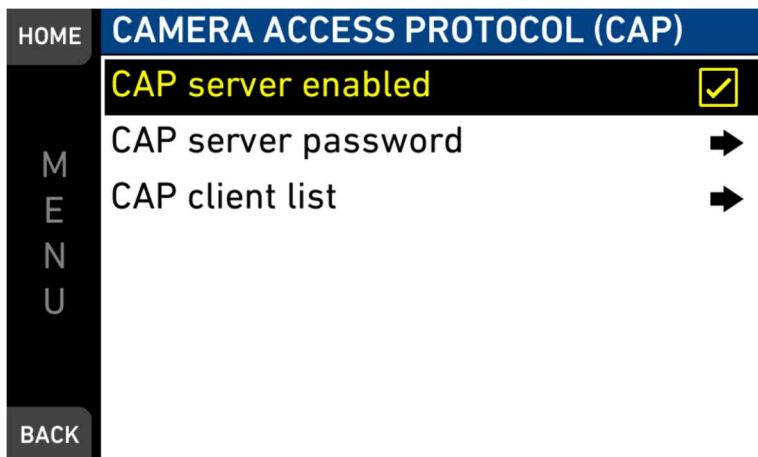
Recording > Project settings > Lens squeeze factor

MENU > Monitoring > EVF/Monitor > Anamorphic desqueeze

MENU > Monitoring > SDI > Anamorphic desqueeze

6. カメラアクセスプロトコル (CAP)

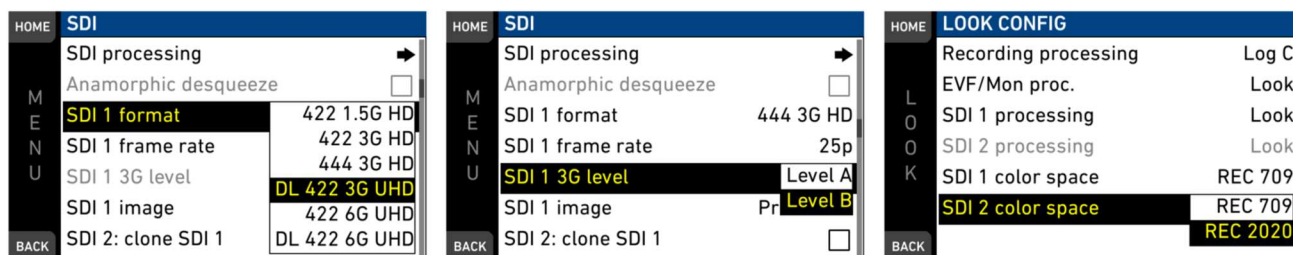
カメラアクセスプロトコルはAPI(Ethernet and WiFi)ベースのIPを通してルックのパラメータの修正ができる



MENU > System > Camera access protocol (CAP)

7. モニタリングと表示の向上

ARRI Look File V2はRec 2020カラースペースをサポート、デュアル422 3G UHD, デュアル422 6G UHD, 3G Level A/Bをサポート, Stelite HD5-ARRIでプレイバックとユーザーセットアップをコントロール、プレイバックは最高512倍速シャトル



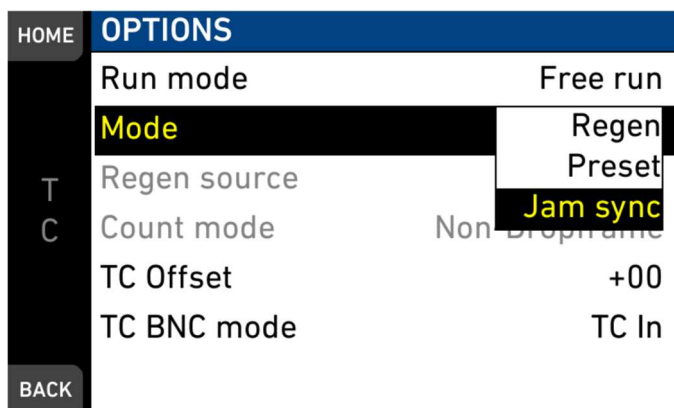
MENU > Monitoring > SDI > SDI 1/2 format MENU > Monitoring > SDI > SDI 1/2 3G Level

HOME > LOOK > CONFIG > SDI 1/2 color space

8. タイムコード、取扱いの向上

新しいジャムシンクモードは、外部ソースからのタイムコードを正確にサンプリングしない。そのうえで、信号を分析し、カメラの内部発信機を外部ソースに同調させます。重要なことに、これはズレの可能性を最小限にします。

ALEXA(MINIを除く)と異なることに気づいてください。分析し、調整するジャムシンクの処理は、最大30秒かかります。ジャムシンクされたタイムコードのズレは8時間以上で1フレーム以下です。



HOME > TC > OPTIONS > Mode

9. EFレンズサポートの拡張

EFレンズのフォーカスとアイリスのコントロール、内臓スタビライザーに対応しました。

10. 進歩したユーザーセットアップの取扱い

1つのファイルにすべてのユーザー設定をストアしていたユーザーセットアップは、機能を拡張しました。5つのパラメータグループ(General,Format,Scene,Lens,User)を使用し、部分的な設定を可能にしました。もっと柔軟に、もっと特殊な制御ができるようになりました。

複数の異なった設定がカメラ内にストアでき、USBメモリーは設定を移す時、必要とするだけになりました。



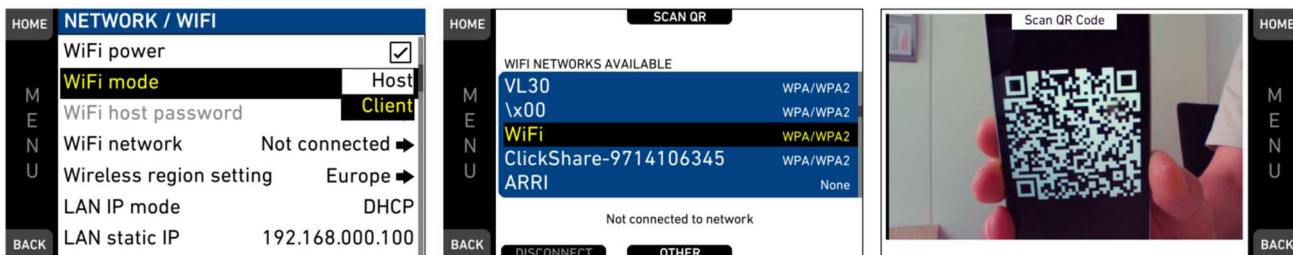
MENU > Setup > User setups installed

MENU > Setup > User setups installed > SAVE

MENU > Setup > User setups on USB > SAVE

11. WiFi インストラクチャーモード

このWiFiは、ネットワークインフラを基盤にした外部ハブによって形成されたWiFiネットワークに接続できます。一つのデバイスで複数のカメラにアクセスできます。ネットワークの設定は、QRコードで行えます。



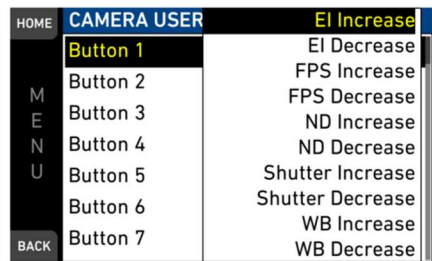
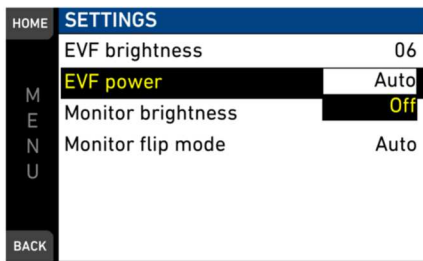
MENU > System > Network/WiFi > WiFi mode

MENU > System > Network/WiFi > WiFi network

MENU > System > Network/WiFi > WiFi network > Scan QR code

12. 各種機能向上

シンプルな中国語のユーザーインターフェイス、収録中でも再生中でもフレームグラブができる。MVF-1のOLEDをスイッチオフできる。ユーザーボタン用の EI、センサーfps、NDフィルター、シャッター、ホワイトバランスのような基本的な設定のリスト



MENU > System > Language

MENU > Monitoring > EVF/Monitor > Settings > EVF power

MENU > User buttons

SUP6.1

ソフトウェア互換性に関する注意事項

ARRIRAW Converter (ARC)を少なくともバージョン 4.1.1.0 に更新し、ARRI Meta Extract (AME)をバージョン 4.1.0.0 に更新してください。

ダウンロードした MXF / AppleProRes フッテージを AppleQuickTime Player で再生するには、AppleMXF プラグインがインストールされた macOSX バージョン 10.15 (「ProVideo Formats2.1」の一部)が必要であることを注意してください。

SUP6.1の新機能

1. 改善されたノイズリダクションアルゴリズム

ノイズリダクション機能 (MENU> SYSTEM> SENSOR)が改善され、モーション検出アルゴリズムが強化され、ノイズリダクションがさらに向上しました。

2. HDでのノイズリダクションのサポート

ノイズリダクションは、最大60fpsのHDおよび2Kモードでも利用できます。アルゴリズムとパラメータはUHDモードと同じです。

3. 画像のシャープネス範囲が拡張されました

画像の鮮明度の範囲 ([メニュー]> [システム]> [センサー])が拡張され、画像をより強く鮮明にすることができます。

4. 欠陥ピクセル補正-静的補正

欠陥ピクセル補正がさらに改善されます。

5. SDI出力はプロジェクトのフレームレートに従います

プロジェクトのフレームレートを変更すると、SDI出力のフレームレートは(センサーのフレームレートと同じように)同じフレームレートに設定されます。

6. フレームラインシェーディング

フレームラインの外側の領域は、特定の不透明度でシェーディングできます (MENU> MONITORING> EVF MONITOR> EVF OVERLAYS> FRAME LINES SHADING)、(MENU> MONITORING> SDI> SDI PROCESSING> SDI OVERLAYS> FRAME LINES SHADING)。

7. 起動時間の短縮

カメラの起動時間が短縮され、SUP5.4よりも約4秒速くなりました。

8. ビューファインダーのグリーンタリー

緑色のタリーインサートがファインダー画像に表示され、新しいVMM-1 (ビデオモニターマルチカム)を含むすべての構成でカメラマンに緑色のタリーアラートが表示されます。

9. VTRボタン(またはユーザーボタン)を使用したインターコムトークバック

DTSファイバーシステムのインターコムトークバックは、カメラのユーザーボタンまたはENGLレンズのVTRボタン(メニュー/ユーザーボタン)でトリガーできるようになりました。これにより、カメラが肩にかかっているときにトークバックに簡単にアクセスできます。DTSシステムの最新のファームウェアが必要です。

10. DTS FCAを使用すると、電源を入れ直すとカメラが自動的に起動します

ファイバーシステムがカメラに電力を供給しているとき、カメラは自動的に起動します。これにより、リモートまたは

クレーンを含むすべてのカメラのセットアップとメンテナンスが容易になります。

11. VMM-1のサポート

ビューファインダーインターフェースへの接続には、SUP6.1が必要です。

12. ログCベースのカラーペインティング

特定のHDR制作ワークフローでは、特定のLogCベースの外観でカラーペイントも可能です。

13. CForceRFモーターを備えたRCPアイリスリモコン

シネスタイルレンズでは、RCP(リモートコントロールパネル)は、AMIRAPLマウントのENG Hiroseコネクタに接続されたCForceRFモーターを使用してレンズアイリスをリモートコントロールできるようになりました。モーターとマウント間の接続には、特定のケーブルが必要です。ケーブルCAM(7p)- ENG(12p)(0.3m / 1ft)K2.0015759。

「BroadcastCamin」のようなインターフェースボックスは不要になりました。

14. CAPの機能強化

より強化されたリモート機能とツールのために、CAP(Camera Access Protocol)は、RCPアイリス制御、ビデオパラメーター、オーディオ、カメラセットアップ、フレームラインなどのために拡張されました。

15. ECS の改善

ECS(電子制御システム)は、WCU-4 からの即時の OCU オーバーライドキャンセルが改善されました。

16. 一般的な改善とバグ修正

- いくつかのバグ修正が含まれています。
- トラブルシューティングを簡素化するために、ログファイル、HWinfo ファイル、セットアップファイルを含む圧縮 ZIP ファイルをエクスポートできます。
- カメラのシステムクロックの内蔵バッテリーが少なすぎると、警告メッセージが表示されます。
- WiFi 電源の工場出荷時のデフォルト設定は「オン」に設定されていますが、他のデフォルトは変更されていません。
- 偽色モードは、偽色がアクティブなときに変更できます。

SUP6.1の新しい動作

- カメラシステムクロックの内部バッテリーが低すぎる場合、警告メッセージが表示されます。

「内部時計の電池残量が少なくなっています。ARRIサービスにお問い合わせください。

内蔵バッテリーは、記録されたクリップとログファイルで使用されるシステムクロックを供給しています。常に正しい日時を含めるために、できるだけ早くバッテリーの交換についてARRIサービスに連絡してください。

Known Issues

SUP6.1で修正された既知の問題

SUP 6.1リリースでは、次の問題が解決されています。

- 出力処理がALEXAClassic 709に設定されている場合、波形露出ツールは無効になります。

HDRコンテンツの撮影中のALEXAClassic 709出力処理は、波形露出ツールでは機能せず、無効になります。MVF-1ビューファインダーのユーザーボタンとEXPボタンは機能しません。

- 再生から録音を開始します。

再生から直接録音を開始すると、機能しない場合があります。この場合、録音ボタンを2回押す必要があります。

- ・インターバル記録に表示される残り時間が正しくない。

大容量のCFast2.0カードをインターバル録画に使用すると、残り時間が正しく表示されない場合があります。

- ・タイムゾーンと夏時間は、SUPアップデートでデフォルトに設定されています。

SUPの更新後は、必ずタイムゾーンと夏時間を設定してください。

SUP6.1の既知の問題

これは、SUP6.1ソフトウェアパッケージの既知の問題のリストです。

付属品

- ・Canon HJ18 B4レンズで、レコードStart/Stop

キヤノンHJ18B4レンズのスタート/ストップ機能がARRI B4マウントと接続されたヒロセケーブルで機能しない場合は、レンズで「すべてリセット」を実行してください。

- ・起動後にBluetoothデバイスを再接続する

オーディオモニタリング用の一部のBluetoothデバイスは、カメラの起動時に常に自動的に再接続されるとは限りません。この場合、Bluetoothデバイスを手動で再接続してください。

オーディオ

- ・接続されたAES3ソースでのバッテリー交換

サウンドミキサーなどのAES3ソースを接続してバッテリーを交換した後、AMIRAのオーディオ機能が正しく初期化されない場合があります。「未定義の位置に切り替えてください」のようなエラーメッセージが表示される場合があります。この場合、カメラを再起動してください。この問題を回避するには、カメラのバッテリーを交換する前に、サウンドミキサーの電源を切るだけです。オーディオアッテネーターを使用すると、これにも対処できます。詳細については、ARRIサービスにお問い合わせください。

- ・起動時に発生する可能性のあるオーディオグリッチ

カメラの電源を切っているときにヘッドホン装着しているときは、大きな音声グリッチが発生する可能性があることに注意してください。

- ・オーディオミキサーに接続されたヘッドホン出力

ヘッドホン出力をオーディオミキサーに接続して録音を監視する場合、カメラに初期のIAOU 1オーディオボードが使われていると、オーディオボードが損傷する可能性があります。これは、ヘッドホン出力の音量にのみ影響します。ヘッドホン出力の最大音量の低下を認識した場合、これはこの損傷を示している可能性があります。

この場合、ARRIサービスセンターにお問い合わせください。この動作は、後のIAOU2オーディオボードでは起こりません。

フレームグラブ

- ・インターレースS16またはHDクリップの一時停止再生では、フレームグラブはサポートされていません。

フレームグラブを実行するには、再生中に目的の位置でフレームをグラブします。

- ・CAPoverWiFiを使用したフレームグラブが失敗する。

WiFi接続を介してCAPを使用してフレームグラブをアクティブ化すると、フレームグラブが失敗する場合があります。イーサネット接続を介したCAPフレームグラブは正常に機能します。

- ・ARRIRAW再生からのフレームグラブ

ARRIRAW再生から取得したフレームグラブは、フレームのエッジでピクセルの明るさの違いを示す場合があります。

入力/出力

- ・リターン入力を最初にアクティブにすると、画像が歪む場合があります

カメラの起動またはセットアップ後、ライブカメラ画像からリターン入力への最初の切り替えで、SDI出力に歪んだフレームが表示される場合があります。次のリターンアクティベーションで、スイッチはクリーンになります。

- ・SDI2での間違った偽色モード

SDI 1出力を「Clean」に設定し、SDI 2を「Processed」に設定すると、False Color機能は、「Log C-Based」モードに設定されている場合でも、SDI出力に常に「MonitorBased」モードを表示します。SDI 1が「Processed」に設定され、SDIが「クリーン」に設定されている場合、偽色機能は期待どおりに機能します。

- ・V / Hフリップで逆にされたSDIインターレースフィールドの順序

V又はV+Hフリップをアクティブにすると、SDI出力でのインターレースフォーマットのフィールド順序が逆になります。

- ・SDIフレームレートがセンサーフレームレートよりも大きい場合、ラインが歪む可能性があります

SDI出力フレームレートを59,94または60fpsに設定し、記録フレームレートが50 fps(またはそれ以下)の場合、SDIイメージにラインアーチファクトが発生する可能性があります。

- ・再生モードの開始/終了により、瞬間的な信号損失が発生します。

再生モードに入るとき、または再生モードを終了するとき、記録フレームレートがプロジェクトフレームレートの2倍である場合、または記録フォーマットがインターレースされている場合、SDI出力はSDI信号の瞬間的な損失を示します。

- ・SDIステータスオーバーレイに間違った処理アイコンが表示される場合があります

処理モードがA709に設定されている場合でも、特定のSDI出力でLogCアイコンが表示される場合があります。

- ・1.3倍のアナモルフィックデスクイーズはEVFズームでは使用できません。

1.3倍のアナモルフィックデスクイーズはEVFズーム画像には適用されません。

- ・1.3xアナモルフィックデスクイーズはUHD SDI出力には使用できません。

1.3xアナモルフィックデスクイーズは、UHD SDI出力422 6G DL、422 6Gおよび422 3G DLには適用されません。

- ・クローンモードでSDI出力を使用してリターンインをアクティブ化する

SDI出力をクローンモードに設定してリターンインをアクティブにすると、瞬間的な信号損失が発生する場合があります。

- ・1.3倍のアナモルフィックデスクイーズを使用した3.2Kでのモニタリング

EVF /モニターおよびSDI出力は、1.3xアナモルフィックデスクイーズが有効になっている3.2K記録モードでスケールングアーティファクトを示す場合があります。アーティファクトはモニタリング出力に限定されており、記録には影響しません。

- ・DL6GでのHD-SDI出力パフォーマンス

最高のDL422 6G SDI出力パフォーマンスを得るには、新しいSDIボードFIOAXRev.Hにアップグレードすることをお勧めします。お問い合わせは、最寄りのARRIサービスセンターまでご連絡ください。

- ・psfまたはインターレース信号を使用したMPEG-2モードでのリターンインなし

カメラがMPEG 2モードで、リターン信号がpsfまたはインターレースの場合、リターンイン入力はサポートされません。

- ・同期ソースを接続するときのSDI出力での瞬間的な画像損失

ゲンロックまたはタイムコードソースを接続すると、SDI出力が再同期します。再同期中に、短い画像損失が発生する可能性があります。

- ・6Gを構成する際のSDI出力での一時的な画像損失

SDI出力を6Gに変更する場合、またはSDI出力を6Gから別の形式に変更する場合、両方のSDI出力で短い画像損失が発生する可能性があります。

- ・タイムコード同期使用時のSDI出力

タイムコード信号を同期ソースとして使用する場合、SDI出力が同期ソースと正確に同期していない可能性があります。ソースを同期するための正確なSDI出力同期については、3レベルのゲンロック信号を使用してください。

メディア

- ・クロスプラットフォームのCFast2.0フォーマットの問題に対する保護

記録に使用できるのは、SUP 4.0(またはそれ以降)を実行しているALEXAMiniまたはAMIRAで消去されたCFast2.0カードのみです。これは、他のカメラメーカーが使用しているさまざまなCFast2.0フォーマットスキームによって引き起こされる問題から保護するためのものです。

再生

- ・50i / 59.94i クリップをスキップする再生モード「次のクリップを再生

プロジェクトレート 50i / 59.94i(再生終了モードが次のクリップを再生するように設定されている)で複数のクリップを再生すると、すべてのクリップが連続して再生されるとは限らず、クリップがスキップされる場合があります。

- ・再生をアクティブにしても、ピーキングは無効になりません。

再生中にピーキングを行わない場合は、手動でピーキングを無効にしてください。

・一時停止モードでは、インターレースクリップは半分の垂直解像度しか表示しません。この動作は、SDI 出力で再生が監視されている場合のみ観察できます。

・インターレースクリップは、SDI 出力がインターレースに設定されていない状態で再生すると垂直方向にジッターします。これはSDIでの再生にのみ影響し、記録は正しいです。SDIの出力構成をプロジェクト構成と常に一致させてください(例: 60i SDI 出力で再生される 60i クリップ)。

- ・HDR が焼き付けられているように見えるクリップは、MVF および EVF で正しく表示されません。

HDR の外観が焼き付けられているクリップを再生すると、MVF と EVF の両方が HDR に対応しておらず、トーンマッピングが適用されていないため、正しく表示されません。これは監視の問題であり、記録された映像には影響しません。ただし、HDR コンテンツを撮影するときは、通常、外観を焼き付けることはお勧めしません。

録音

- ・CFast2.0カードでの記録中の電力損失

CFast 2.0カードは、記録中に取り外された場合、またはカメラがカードに書き込んでいるときに突然電源が失われた場合に、再フォーマットする必要がある場合があります。カメラは警告メッセージでエラーを示します。カードの損傷やそれ以上の録音を避けるために、警告の指示に従ってください。警告が表示されない場合、アクションは不要です。詳細について、またはさらに問題が発生した場合は、ARRIサービスにお問い合わせください。

- ・MPEG2で利用可能な記録時間を示しました。

MPEG 2録画モードでは、カメラによって表示される利用可能な録画時間は、実際の利用可能な録画時間よりも短い場合があります。つまり示されているよりも多くの記録時間がカードで利用できる場合があります。

- ・SanDisk120GBおよび60GBカード

ごくまれに、SanDisk 60GBまたは120GBカードでは、「記録カード(スロットA)の書き込みに失敗しました」というエラーメッセージが表示されて記録が中断されることがあります。

- ・垂直方向の画像ミラーリングがクリップメタデータとして適用されます。

ミラーリング情報は、メタデータとしてQuicktimeファイルに保存されます。MPEG-2 HD MXFファイルはメタデータを介したミラーリングをサポートしていないため、ミラーリングを適用せずにクリップを再生します。

- ・最大クリップサイズのエラーメッセージ。

ごくまれに、カメラが録画を停止し、「録画が停止しました-最大クリップサイズに達しました」と報告する場合があります。これは、詳細がほとんどなく、ProResLTのようなデータレートの低いコーデックを使用している画像コンテンツでのみ発生する可能性があります。

- ・CFast2.0 カードのリールの数に限られている。

CFast 2.0 カードでの記録は、ProRes および ARRIRAWMXF ではカードあたり 15 リールに制限されています。MPEG-2 HD 422 では、制限は 2 リールです。リールの最大数に達した場合でも、それ以上リールを作成する必要がなければ、記録は可能です。

- ・MPEG または ARRIRAW モードでの再生から録音を開始します。

再生から直接 MPEG または ARRIRAW 記録を開始すると、「FPGA 障害のために記録が停止しました。カメラを再起動してください。」というエラーメッセージが表示されて失敗する場合があります。録音を開始する前に、再生を終了してください。

- ・「ストロング」モードでのノイズリダクション

ノイズリダクションの「ストロング」モード(S16 HD、3.2K、4:3 2.8K、4K UHD で利用可能)は、動きの速いオブジェクトで画像アーティファクトを引き起こす可能性があります。「強力」モードを使用する前に、これを適宜テストすることをお勧めします。

- ・2K で記録する場合、HD-SDI 出力のスケール品質が制限されます。

結果として得られる画質は、監視には十分であると見なされますが、信号をマスターレコードとして記録するには制限される場合があります。これは、2K 解像度が HD にダウンスケールされたためです。HD-SDI 出力にマスターレコードとして HD を記録する場合は、記録形式を HD に設定してください。

- ・高温でスロット B の SanDisk120GB または 128GB カードを使用して高データレートを記録する。

摂氏 40 度または華氏 104 度をはるかに超える非常に高い環境温度で SanDisk120GB または 128GB カードを使用し、200fps に近い最高フレームレートで ProRes4444 を記録すると、カードスロット B の最大記録時間が制限される場合があります。上記の条件が満たされている場合は、CFast スロット A を使用して長時間の録音を行ってください。

- ・記録中の露出指数またはホワイトバランスの変更

記録中に露出指数またはホワイトバランスを変更すると、1 つのフレームに 2 つの異なる画像特性が含まれる可能性があります。

- ・カメラが ARRI_UDF CFast 以外のカードのフォーマットを要求しない場合があります。

MVF ディスプレイがライブビューモードに設定されている間、カード上のファイルシステムが ARRI_UDF ファイルシステムではなく、FAT32、ExFAT などであっても、カメラは CFast カードのフォーマットを要求しません。

タイムコード

・LTCタイムコードを介してセンサーを同期するには、高精度のタイムコードジェネレーターが必要です。LTCタイムコード信号を使用してカメラをゲンロックする場合は、ジッターの低い高精度のジェネレーターが必要です。標準のLTCタイムコードソースとして問題なく動作するデバイスは、LTCゲンロックソースとして動作しない場合があります。

- ・タイムコードを使用して複数のカメラを同期する。

タイムコード同期とタイムコードモード再生を使用して複数のカメラを同期する場合、記録されたクリップの一部は、30fpsを超えるプロジェクトレートで1フレームのタイムコードオフセットを示す場合があります。

更新

- ・AMIRAを使用してLBUSデバイスを更新することはできません。

LBUSデバイス(マスターグリップ、CForceモーター、LCUBE)は、ケーブルEXT-LBUSを使用してAMIRAで更新することはできません。ALEXA Mini、UMC-4、またはケーブルLCS-LBUSを備えたWCU-4を使用するか、最寄りのARRIサービスにお問い合わせください。

使いやすさ

- ・ファクトリーリセットおよびセットアップファイルはレンズマウント設定を無視します。

工場出荷時のリセット後、またはセットアップファイルのロード後、設定MENU / SYSTEM / LENS MOUNT SETTINGS /

ENABLE LDS MOUNTは変更されず、以前の設定のままになります。それに応じて、常にENABLE LENSEMOUNT設定を確認してください。

- ・SUPの更新後にWebリモート機能が正しく機能しない。

カメラを更新した後、Webブラウザのブラウザキャッシュをクリアしないと、Webリモート機能が正常に動作しない場合があります。

- ・アクティブ化されたSDIフレームラインまたはピーキングでQRコードスキャンが失敗する場合があります。

カメラのWiFiセットアップにQRコードを使用する場合、フレームラインまたはSDI出力のピーキングがアクティブになっているとスキャンが失敗することがあります。QRコードをスキャンするには、一時的に非アクティブ化するだけです。

- ・MVF-1とCCP-1を接続するとモードスイッチがスムーズにならない。

デジチェーン接続されたMVF-1とCCP-1、およびMVF-1がアクティブモードの場合：ProResからARRIRAWに、またはその逆に切り替えると、ディスプレイに黒いバーが表示され、黒にフェードします。モードスイッチ自体は正しく実行されます。

- ・モード変更後、波形表示が更新されない。

ビューファインダーで波形表示を有効にして記録解像度を変更した場合、波形表示は更新されません。波形表示を更新するには、WFMのオフ/オンを切り替えるだけです。

- ・名前が32文字を超えるフレーム行はサポートされていません。

32文字を超える名前のフレーム行はサポートされていません。

- ・ゼブラ機能は99%に制限されています。

Zebra関数の上限は99%に設定されています。

- ・カメラの再生中にCAPサーバーのフレームを取得する。

内部カメラの再生中にCAPサーバーを介してトリガーされたフレームグラフは、再生画像の代わりにセンサーからライブ画像を取得します。

- ・Starlite-HD5ARRIは、UIが画面に表示されていない場合でも、設定を変更したり、録画をトリガーしたりできます。

Starlite-HD5ARRIが「CLEAN」出力を表示するSDI出力に接続されている場合、画面の各領域に触れたときに、設定が予告なく変更されることがあります。タッチインターフェイスを表示するには、Starlite-D5ARRIが「PROCESSED」に設定されているSDI出力に接続されていることを確認してください。

- ・カメラでのMPEG-2再生

まれに、MPEG-2クリップの再生が中断される場合があります。さまざまな速度で早送りすることで、カメラのクリップを確認できます。疑わしい場合は、クリップをコンピューターで再生してください。

- ・SUP4リリースと互換性のない更新されたEFマウント

カメラソフトウェアをSUP4に戻しても、EFマウントソフトウェアはダウングレードされません。その場合、SUP5.xでアップデートされたEFマウントは機能しません。

- ・以前のSUPで作成されたユーザー設定は、SUP6.1と互換性がありません。

SUP 5以前のSUPで作成されたユーザー設定は、SUP6.1ではロードできません。

- ・鏡像の垂直反転はフレームグラフには適用されません。

鏡像設定を使用する場合、フレームグラフには水平方向の反転のみが適用されます。

- ・タイムコードモードのジャム同期とゲンロック同期の同時使用はサポートされていません。

タイムコードモードのジャム同期を使用する場合、またはゲンロック同期を使用する場合、カメラはソースクロックに一致するように内部オシレーターを調整します。したがって、タイムコードモードのジャム同期とゲンロックの組み合わせの使用はサポートされていません。

- ・消去中、他のカードに記録することはできません。

カードの消去中は、2枚目のカードに記録することはできません。カードが消去されている間は、カメラの設定を変更することもできません。

ファインダー

- ・非常に低いフレームレートでのズームまたはサラウンドビュー

MVF-1 / MONITORの画像は、ズームまたはサラウンドビューのいずれかが非常に低いフレームレート(5 fps未満)でアクティブ化または非アクティブ化されると、一時的にフェードします。

- ・新しい接眼レンズにアップグレードされていないシリアル番号2150までのMVF-1の場合

ビューファインダーは、接眼レンズの使用中にのみ近接センサーを使用してOLEDディスプレイをアクティブにするため、スイッチがオンにならない場合があります。不利な角度でMVFに近づくと、MVFが適切にトリガーされない可能性があります。

- ・キャリブレーションは、最初の接続から10秒後に適用されます。

MVF-1を内蔵の新しいOLEDビューファインダーパネルに初めて接続する場合、新しいビューファインダーキャリブレーションがロードされて適用されるまでに最大10秒かかる場合があります。

マルチカム

- ・マルチカムモードでのみマスターブラックペDESTAL CAPコントロール

マスターブラックペDESTALおよびその他のビデオパラメータのCAPコマンドは、カメラのマルチカムモードがアクティブになっている場合にのみ実行されます。

- ・IAOX-Mを使用したAMIRA:GenlockSyncオプションの参照/アナログ

変更されたSDIボード「IAOX-M」(AMIRA CLなど)を搭載したAMIRAカメラの場合、Genlock Syncメニューには、SUP6.1のインストール後の最初の起動時にrefin / analogオプションが表示されません。さらに起動すると、オプションが表示されます。

- ・CAPによるRCPアイリスコントロール

CAPプロトコルを使用してレンズアイリスを制御する場合は、「マルチカム」モードをアクティブにするか、オプション「レンズスイッチが自動アイリスをトリガーする」(HOME / EXPOSURE-INDEX / IRIS / OPTIONS)を非アクティブにする必要があります。

- ・ゲンロック同期機能には、安定したリターン入力信号が必要です。

安定したゲンロック同期を実現するには、戻り入力信号が歪みのないクリーンな信号である必要があります。

- ・RCP値が一貫していない可能性があります。

RCPのパラメーター値は、正と負の範囲でミラーリングされません。最大値:-87 / +89。